令和６年度　第１回　多職種連携つなぐカフェ【ご報告】

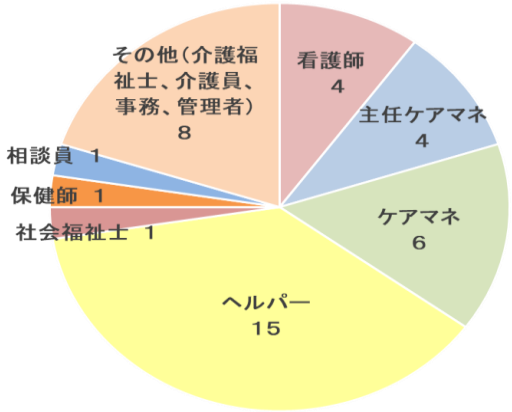
【日 時】令和6年11月27日（水）　13:00～14:30

【会 場】石巻市ささえあいセンター3階　ささえあいホール

【内 容】
（1）講話
　「食べたいのに食べられない？
　　それとも食べたくない？　～生ききるために～」
（2）グループワーク
　「食べづらくなっている方への支援について」

【講　師】
　宮城県訪問看護ステーション連絡協議会
　県北ブロック長　大　塚　晶　子　　氏

参加者の職種（人数）
※参加者42名中、アンケート回答者40名



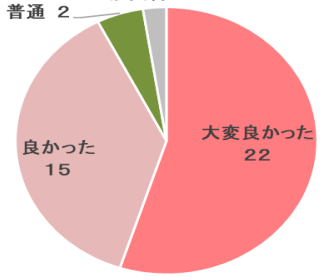
<参加風景>

大塚さんより、食事量が減ってきた際には内服の副作用、口腔内の問題、嚥下の問題、脱水や感染症、排せつの問題、睡眠の問題を考える必要がある。
食べられなくなれば、1週～10日で生命の危機が訪れるが、身体に負荷がかかる場合には、点滴を選択しない場合もあるので、本人・家族への理解が必要であるとお話をいただきました。

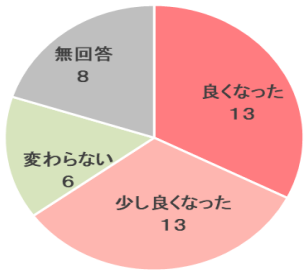
講話後は、フリートークの時間を設け、参加者が食べづらくなった際の支援について、課題に感じていることや支援にあたる上で工夫していることなどを話し合っていただきました。

＜アンケート結果（n=40）＞

今回の研修（交流）会に参加していかがでしたか（人数）



以前より、他職種との連携がスムーズになったと感じますか。



＜感想＞
●高齢者の病気によるものだったり、体の状態により食べられなくなったりと「生きる　生きる」を考えさせられました。
●食事介助をする機会はありませんが、今回のテーマで沢山の実情と意見などを聞くことができ、すごく勉強になりました。来てよかったです。大塚さんのお話もよかったです。
●グループワークの発表の際に問題に対してどのような解決策があるか考え、発表したほうが伝わりやすいのかなと思いました。
●参加する度に顔見知りが少しずつ増え、話しやすい関係を作ることができてきていると感じるので、年1から2回は多職種つなぐカフェが続くといいと思う。

2024.12　発行
石巻市保健福祉部 介護福祉課

食べづらくなった方への支援について【課題に感じていること】

ポジショニングが正しくできているか不安	飲み込みでむせてしまう	食事に集中できないことがある（他のことに気を摂られてしまう・眠ってしまう等）
食事介助に時間がかかってしまう	早食いで、すぐに飲み込んでしまう	飲み込みが進まず、口の中に溜まっている
食形態の変更を認めてもらえない・とろみを嫌がる	座っていても、姿勢が崩れてしまう	好き嫌いが激しい

食べづらくなった方への支援について

■食べる時間や食べる場所を変更し、本人の食べやすい環境に合わせる
■口腔体操を実施してから、食事を摂っていただくようにしている
■麻痺の有無に関わらず、左側または右側と本人が食べやすい方向から介助する。
　クッション等を使ったポジショニングを行っている。
　ベッドであれば、食べやすい角度に調整しポジショニングを実施している。
■食べられなくなったら好きなもの（アイス等）を食べさせる
■水分から食事介助を行っている
■食べられない場合、無理にではないが捕食を利用し栄養を摂っていただいている
■内服時間を早める
■本人の好きなものを聞いて、なるべく食べられるようにする（食形態に合わせて提供する）
■口腔ケアを行い、口腔内の清潔保持を行っている
■訪問看護師から、助言をいただいて支援している
■介助する際、食事の量やスプーンの大きさを変更する
■一人ではなく、誰かと食べられるような環境を整備する

2024.12　発行
石巻市保健福祉部 介護福祉課